

平成 29 年度第 3 回岡崎市交通政策会議 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

平成 29 年 10 月 16 日（月）10 時 00 分 ～ 11 時 15 分

2 開催場所

岡崎市役所東庁舎 7 階 701 号室

3 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員（21 名）

伊豆原	浩二	委員	（愛知工業大学 客員教授）
松本	幸正	委員	（名城大学 教授）
西川	雄一郎	委員	（愛知環状鉄道(株) 運輸部管理課 課長）
近藤	博之	委員	（名鉄バス(株) 運輸部 部長）
鋤柄	徹	委員	（名鉄東部交通(株) 常務取締役営業本部 本部長）
河口	恒徳	委員	（愛知県タクシー協会岡崎支部 支部長（名鉄岡崎タクシー））
古田	寛	委員	（(公社)愛知県バス協会 専務理事）
※小林 裕之 事務局次長 代理出席			
中村	彰宏	委員	（愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事）
前山	敏昭	委員	（岡崎商工会議所 交通部会 会長）
神尾	明幸	委員	（岡崎市総代会連絡協議会 会長）
鷺山	幸男	委員	（岡崎市老人クラブ連合会 会長）
加賀	時男	委員	（岡崎市障がい者福祉団体連合会 会長）
酒井	英二	委員	（岡崎市六ツ美商工会 会長）
柴田	義則	委員	（額田地域生活交通協議会）
伊藤	光明	委員	（国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課 課長）
杉本	忠久	委員	（国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局首席運輸企画専門官）
桑原	良隆	委員	（愛知県 振興部 交通対策課 主幹）
※塚崎 有里 主任 代理出席			
二ノ宮	明彦	委員	（愛知県 西三河建設事務所 維持管理課 課長）
大野	正弘	委員	（愛知県警察 岡崎警察署 交通課 課長）
※春田 尚宏 交通課 規制係 代理出席			
清水	康則	委員	（岡崎市 副市長）
足立	邦雄	委員	（岡崎市 都市整備部 部長）

(2) 欠席委員 (1 名)

木本 正則 委員 (名古屋鉄道(株) 東部支配人室 営業総務課 課長)

5 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

牧野 泰司 (交通政策課 課長)、杉山 幹昌 (副課長)、井尻 智久 (主任主査)、成瀬 泰樹 (主事)、湯口 航平 (主事)

6 傍聴者、随行者等

6 名

7 会長あいさつ

(内容省略)

8 議題

(1) まちバス運行の一部変更について

まちバス運行の一部変更について資料 1 により説明をした。

<以下、各委員の意見等>

副座長： 前回の会議において、ダイヤ案に関して本数が多い案も考えられないかということでご検討いただき、今回ダイヤ案を 2 つ出していただいたと思う。事務局としてはパターンダイヤの方がいいのではないかということだが、まちバスはご高齢の方の利用が多いとのことなので、本数よりもわかりやすさを優先した方がよいという事務局の考えには賛同できる。一方で、東岡崎駅バス停での名鉄バスダイヤとの調整、中岡崎駅や東岡崎駅での鉄道との接続、岡崎女子短大の授業時間との調整等、非常に難しいダイヤ設定条件でやっているといると思う。その中で、一番乗降が多いであろう東岡崎駅の発車時間がキリの悪い時間になっているので、さらに微調整をしていただき、よりわかりやすいダイヤにしてほしい。また、可能ならば市役所での会議などにも使えるようにしていただけるとよい。基本的にはパターンダイヤでよいと思うが、多くの利用者にとって、わかりやすく実用的なダイヤに微調整をお願いしたい。

事務局： ご指摘があった通り、中岡崎駅や東岡崎駅等での乗継を考えており、非常に難しいダイヤ設定になっている。事務局としては、パターンダイヤで進め

て行くということで、ダイヤの微調整については先生方と調整を重ねていきたいと考えている。

副座長： 東岡崎駅の発車時刻が土休日は名鉄バスと重なっているがよいのか。

事務局： 東岡崎駅周辺の渋滞を考慮し、交通量の多い平日は発車時刻を調整している。土休日については交通量が少ないので、特に問題はないと考えている。

副座長： 市役所周辺のまわり方がかなり複雑だが、市役所前を走っていくバスを見て、バスが通り過ぎてしまったと利用者に思われぬか。

事務局： 事務局で掲示物を考えており、南北線との乗り換えも含めて周知を考えている。

副座長： 少し投資が必要となり、簡単には実現出来ないと思うが、到着案内システム等があればよい。案内を徹底していけば利用者は慣れていくとは思いますが、待っているバスがそのまま前を通り過ぎて行ってしまうのは不安になる。

委 員： 確かにげんき館や中岡崎駅に向かう人のことを考えると少し案内に工夫があるかと思う。しかし案内表示にも車両に限界があるので要検討だと思う。

座 長： 市役所周辺は見えているところを何回も周ることになる。東行きと西行きで見えているところを何回も周るようになっていくなると、バスが行ったのか行っていないのかがわかりにくい。

事務局： 周辺の道路が一方通行が多く、現段階では様々な検討した上で最良の案だと考えているが、今後は委員の皆様が言われたとおり少し検討が必要だと考えている。

委 員： 評価の指標については、前回資料にあった 20%等を定めていくということなのか。運行前に数値目標等がこれから提示されるのか。

事務局： 前回の会議において評価の分科会の設置を議決いただいたが、その中で指標について審議をし、次回の交通政策会議で評価の案を提示させていただく予定である。

委 員： 平成 33 年度に名鉄バス路線化とのことだが、市民にとっては名鉄バスであろうがまちバスであろうがあまり関係なく、名鉄バス路線化をなぜ進めてい

くのかを見せるような、もしくはまちバスの利用促進をする際にこの目標値をクリアすれば名鉄バス路線化されて財政負担が減る等を市民に向けて明示することが必要なのかと思う。

事務局： 承知した。

委員： 現行から本数がほぼ半分になってしまうが、本当に利用者にとってプラスになるのかと疑問に思う。

事務局： まちバスの東岡崎駅接続は市民要望が多くあり、接続によって運行時間が延び、東西線に充てられる車両が2台という条件下でダイヤを引くと、1時間に1本、ただし東岡崎から市役所間は東行きと西行きがかぶるので1時間に2本の運行となる。今後評価をしていく中で、一度この状態で走らせ、どれくらいの人利用されるのかも見て考えていきたい。また、市役所で乗り換えることにより、南北線利用者も東岡崎に行くことが出来る。

座長： 今回は東西線の改善として考えていただいたが、今後は市役所で乗り換えをして東岡崎に行くのではなく、南北線そのものを東岡崎にという話が出てくると思う。さらに、どのような評価をしていくかということも大切で、市民にわかりやすくしておく必要がある。

事務局： 南北線については市民の皆様のアンケートもあり、様々な声が届いている。どこまで改編できるかは費用等の面も出てくるので、会議の場でご相談させていただき、決めていきたい。

委員： 会議で議論していただく事になると思うが、整理をお願いしたい。

副座長： 本数優先ダイヤでは、本数は半減まではいかないと思うが、例えば現行と同じ本数を確保しようと思うと、車両がさらに何台必要で経費がどれくらい上がるのかを教えていただきたい。利用者サイドとしては現行の本数を確保することがどれだけ困難かを教えていただきたい。

事務局： バス車両については、新規ルートは37分の所要時間が必要になるので、現行の30分に1本を確保しようとする車両1台若しくは2台の購入が必要になる。経費は現行の倍近くになると考えている。

委員： 前回の会議から本数が若干なりとも半減から増加しており、第1回目としてこれで動いてみてはどうかと思う。本数は多くあればよいと思うが、諸般

の事情もあると思う。

委員： 先程の事務局の説明のとおり、わかりやすいダイヤ、また南北線との乗継というのはなかなか難しい部分もあると思うが、南北線との乗継によって東岡崎に接続できるということで利便性と効率性がとられていると感じる。また、安全面からみると、本数優先のダイヤであると遅れが生じた際に、運転手の休憩時間が取れない場合が出てくると思うので、パターンダイヤの方がよいと思う。ただ、今後のスケジュールにもあるように、この案ですっと行くということではなく、評価検討もしていくということなので、利用者の意見を聞きながらダイヤの微修正を繰り返していただくのがよいと思う。

座長： 毎年3月ぐらいに鉄道のダイヤ変更があるので、その際にはまちバスとの乗換えが可能なかチェックが必要である。鉄道事業者との情報を密にして、柔軟に対応できるようにしていただきたい。

事務局： 事務局としても座長が言われた通り、鉄道等の時間が変わった際には先生方と微調整をさせていただくという前提条件でご決議いただきたいと思います。

副座長： 愛環ではまちバスは案内していただいているのか。

委員： 窓口で案内していますが、掲示物等はない。

副座長： 是非まちバスとの乗り換えが出来るという掲示等をしていただきたい。

事務局： 東岡崎駅についても名鉄バスとの乗換えや乗り場の周知が出来るように協議を進めている。

座長： 東岡崎はバスターミナルがあるので、利用者がそちらに行ってしまうのではないかと思う。利用者への周知の徹底をお願いします。

事務局： 承知しました。市民への周知については、市政だより 12 月 1 日号やHP、バス車内等で周知をしていきたいと思う。

委員： 駅の観光案内所でも周知いただいた方がよいのではないか。

事務局： 承知しました。観光案内所等でも周知が出来るように協議をしていく。

座長： ルートは今後運行した後に課題が出てくると思うが、今回はこれで運行し

ていく、ダイヤについては案①で1月1日より運行をしていくということでご協議いただいたということでよいか。スケジュールについては事務局から説明があったように、評価をしていく中で改善をしていく必要があると思う。評価については分科会において議論をしていただき、この交通政策会議に議題としてあげていただきたいと思う。

委 員： 異議なし。

9 その他

事務局： 額田のコミュニティ交通について、今年度に入り下山地区のささゆりバス委員会において、運賃収入の他に収入確保の方策として、協賛金の収入を検討している。額田地域の方々も地域のコミュニティ交通存続のため、頑張っておられるので報告させていただく。

10 連絡事項

次回会議（平成29年度第4回）は平成29年12月下旬頃を予定

－ 会 議 終 了 －